

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	ミヤコタナゴ保護対策事業	所管	教育委員会教育総務部 文化財保護課
			TEL 2998-9253

事業の目的 (何の為に 行うか)	絶滅に瀕している国指定天然記念物・国内希少野生動植物種のミヤコタナゴの個体数を維持することで市民の文化財保護意識の向上を図る。また、環境学習、郷土学習等の一端を担う教材となることから保護対策を講じる。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	ミヤコタナゴの個体数	対象とした数	5,100
		実際に 利用した数	5,100

活動の内容 (何を したか)	教育委員会では埋蔵文化財調査センター内で5月～6月に人工受精による増殖を実施。また、危険回避を目的として私立文化幼稚園においても5月～6月に人工授精による増殖を実施。種の保存を図るとともに、自然生息に向けた条件を模索する。								
	活動実績	項目名	総個体数	5100 ----- 単位 尾	項目名	増殖数	1000 ----- 単位 尾	項目名	死亡数

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	3,088	2,108	10,375	30.6

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	増殖数	増加個体数	800 ----- 単位 尾	1000 単位 尾	80.0 ----- 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 []			
		終了 ⇒ 事業完了	終了	休止	
	予算	* 現状どおり	増額	減額	終了

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了					
	総合 評価	拡充 縮小 統合	改善・効率化	改善余地なし	その他 []	終了
	予算	現状どおり	増額	減額	終了	

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当	部課コード	120500	TEL	2998-9253
事業コード	120511	ミヤコタナゴ保護対策事業	教育委員会教育総務部 文化財保護課			
開始年度	平成 8 年度	→	終了年度	平成 年度		
		グループ	記念物			

②事業の概要	事業の種類別	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	<input type="checkbox"/> 法定受託+附加	根拠法令					
	分野別計画・指針	所沢市教育行政推進施策			文化財保護法、絶滅のおそれのある希少野生動植物の種の保存に関する法律、所沢市文化財保護条例					
	関連・類似事業									
	総合計画の体系	政策	第4章 いきいきと学び人・文化をはぐくむまち	施策	5節 市民文化	中柱	3 文化財の保存・活用	小柱	(2)ミヤコタナゴの保護・生息環境の調査	
・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 33 位		・実施計画における位置づけ…		H19	<input type="radio"/>	H20	<input type="radio"/>			
行政改革大綱における行動計画への位置づけ										
コード	3261	事務事業見直しの推進	コード		コード					
事業開始の背景	ミヤコタナゴは昭和53年8月上山口地区の柳瀬川上流部で自然生息していたところを発見、保護された。絶滅回避及び個体数の増殖を図るため上山口タナゴ類保存会が増殖実験池で二枚貝を用いた自然増殖を試みたが成果が上らなかった。そのため、保護対策事業として教育委員会が平成8年度から人工授精による増殖を開始した。									

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的)										
	絶滅に瀕している国指定天然記念物・国内希少野生動植物種のミヤコタナゴの個体数を維持することで市民の文化財保護意識の向上を図る。また、環境学習、郷土学習等の一端を担う教材となることから保護対策を講じる。										
	対象(誰を、何を対象としているのか)					利用数の考え方					
	ミヤコタナゴの個体数					人工増殖による個体数					
対象数	単位	平成 18 年度	5,300	平成 19 年度	5,100	利用数	単位	平成 18 年度	5,300	平成 19 年度	5,100
事業の具体的な内容及び実施方法											
教育委員会では埋蔵文化財調査センター内で5月～6月に人工授精による増殖を実施。また、危険回避を目的として私立文化幼稚園においても5月～6月に人工授精による増殖を実施。種の保存を図るとともに、自然生息に向けた条件を模索する。											

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性) << 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 >>										
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])									
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了									
	平成19年度中に改善した点										
新たにミヤコタナゴの専門家を文化財保護委員として委嘱し、保護対策事業に対し適切なアドバイスが受けられるようにした。柳瀬川上流部にある実験池の砂利の入れ替えを実施した。											

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		3,145	3,088	3,048
	決 算 (見込み含む)		3,249	2,108	
	(嘱託職員) (臨時職員)	(1.00 人)	(人)	(0.95 人)	(人)
	正規職員人件費	0.98 人	9,016	0.88 人	8,267
	公債費				
	事業費合計		12,265	10,375	
	財源内訳	一般財源	12,265	10,375	3,048
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他				
市民一人当たり(単位:円)			36.3	30.6	
利用数一単位あたり(単位:円)			2,314.2	2,034.3	

※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。

⑥指	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	総個体数	前年度個体数+当年度人工増殖数-死亡数	尾	5300	5100	4700	4000
	増殖数	個体数	尾	900	1000	800	800
	死亡数	個体数	尾	300	1200	1200	800
成果分析	増殖数	増加個体数	目標値	800	800	800	800
			実績	900	1000		
			% 達成率	88.9	80.0	実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2	

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性 <input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体 市 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 見直しの必要性
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合 <input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input checked="" type="checkbox"/> 類似事業がない <input type="checkbox"/> 統合等必要ななし	受益と負担の関係	受益者負担の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 見直しの必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	明らかとなった課題	人工増殖の知識・技術については修得したため個体数は安定していることから、自然法流に向けた柳瀬川最上流部の環境整備(二枚貝が自然生息できる環境を含む)が課題。		
⑧二次評価	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
	人工増殖数	800尾	平成20年度末	
	自然放流に向けた荒川水系の二枚貝の確保と自然増殖実験を行なう。	20個の二枚貝を確保する。	平成20年度末	
	平成21年度における事業の方向性			
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])			
予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了			
評価理由	市内は、河川の浄化は進んでいるもののミヤコタナゴの元来の生息地であった水田の水路等は消滅しており、文化庁の放流許可条件となる二枚貝の自然生息箇所もない。ミヤコタナゴや二枚貝が生息する環境の整備には多くの時間が必要となるため、人工授精による当事業の継続は必要である。			
評価日	平成20年5月16日	記入者職氏名	文化財保護課長 金子 美也子	

⑧二次評価	一次評価	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
	評価理由	評価日						
⑨個別計画における方向性	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
	評価理由	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
評価日								

◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ…有り		計画コード	231	261	
⑨個別計画における方向性	施策の体系	2-3生物多様性の確保	施策の方向	2-3-1野生生物の保護		
		2-6歴史・文化的環境の保全		2-6-1歴史・文化遺産の保存と活用		
◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ…無し		計画コード			
基本目標						
主要課題						
施策の方向						